

ロトレインが活躍するのみとなったが、沿線至る所に存在し、鉄道雑誌で紹介される「お立ち台」的な撮影スポットを訪れる鉄道ファンは幅広い年齢層に及んでいる。また、「ふるさと銀河線」の廃止も記憶に新しい。

○

北海道に振り子特急281系「スーパー北斗」(札幌～函館間)が登場したのは、平成6年3月であったが、その後、「スーパーおおぞら」にも運用され、曲線部分の通過速度のアップによる所要時間の短縮が図られた。石勝線開通により、そして振り子特急の登場で、札幌～帯広間は「空」の時代から完全に「JR」の時代へと変貌したと報じられていたのも記憶に新しい。

長い年月と巨額の費用を投資して完成した石勝線は、人里まれな道央の山間を走り抜けてゆく。乗車してみると分かるが、まさに「信号場」「長大トンネル」の連続である。現在の根室本線(釧路～新得)、石勝線の特急列車の運行本数は比較的多いが、今回の旅行でも、西庶路、常豊信号場、芽室、西新得信号場、広内信号場、東オサワ信号場、西早来信号場で上下の特急列車の交換が、ほぼ定時に行われた。比較的、距離間隔の短い駅・信号場の設置により、効率的なダイヤ作成と、ダイヤ混乱時の収束の効率アップに寄与していると思う。

かつて国鉄時代には14～20日間有効の「北

海道ワイド周遊券」が道外で発売され、カニ族を含む多くの若者たちが、路線網の削減前の国鉄路線の踏破にエネルギーを燃やした。この商品もいつしか消え、私個人としては道内でも購入可能な道東回遊券、そして今回利用した道東フリー切符(特急列車乗車可、5日間有効)へと変遷しつつある得割切符を利用して道東の地を訪ねてきた。

道東の夏も絶景である。かつてはマイカーを駆使して訪ねた、このようなスポットの夏の姿を今一度、この夏には鉄道で自分自身の目で確かめたいと思い、やはり道東フリークと同僚女性医師と思いは早、夏の道東の昨今である。



盛夏の釧路湿原を快走する、ありし日の急行「しれとこ」(バックは塘路湖)

国鉄釧網本線 塘路～茅沼間

(著者撮影) 1982年8月(昭和57年)

## その他開催情報

※詳細については各連絡先にお問い合わせください。

■日時・場所	■主な演題および講師	■連絡先	■備考
<b>北海道大学医学部ドクターヘリ普及講演会</b>			
7月4日(火) 17:00～19:00 北海道大学 医学部第一講堂	「北海道におけるドクターヘリシステムの有用性と今後の展開の上での問題点」 NP0病院ヘリ救急ネットワーク理事長 元警察庁長官 松孝次	北海道大学医学部五年 庄司哲明 TEL(090)6444-4895 t-hukuda@yacht.ocn.ne.jp	事前申し込み不要
<b>第23回糖尿病Up・Date 賢島セミナー "Updateな糖尿病ガイドラインへのナビゲーション—各種ガイドラインの効果的な活用法—"</b>			
8月26日(土) 14:00～ 27日(日) 8:20～ 志摩観光ホテル	セミナーⅠ：糖尿病対策を生活習慣病からアプローチ セミナーⅡ：2型糖尿病を糖尿病治療薬からアプローチ セミナーⅢ：危険因子から糖尿病性合併症へアプローチ ほか	中部労災病院 堀田 鏡 ☎(052)652-5511(内2000)	参加費:50,000円 参加人数:100名 まで